

第2回 市長と語ろう！

《テーマ》GREEN×EXPO 2027 開催に向けた取組について(瀬谷区)

《開催日》令和7年12月15日(月曜日)

《会場》神奈川県立横浜瀬谷高等学校(瀬谷区)

《対話団体》神奈川県立横浜瀬谷高等学校 未来共創ラボ

《団体概要》

神奈川県立横浜瀬谷高等学校の「未来共創ラボ」は、未来共創推進委員会内の有志団体として令和6年度に設立されました。社会課題の解決、持続可能な社会の構築、瀬谷区の活性化、GREEN×EXPO 2027 の機運醸成などを目的とし、地域貢献活動、商品開発、中学生向け探究講座などに取り組んでおり、地域や近隣企業と連携して道路沿いに花を植える「フラワーロードプロジェクト」の運営も担っています。また、GREEN×EXPO 2027 政府出展エリアのガーデン研究・制作グループにも選出されています。

〔注〕本議事録では、前後のあいさつ部分は「ですます調」、質疑応答部分は簡潔化のため「である調」で統一し記載しています。また、文意を損なわない範囲で、重複部分や言い回しなどを整理しています。

■市長:あいさつ

皆さんこんにちは。横浜で行われる GREEN×EXPO 2027 の盛り上げについて、ぜひ若い皆さんの意見を率直にいただきたいと思います、お時間をつくっていただきました。今日は、皆さんのやっているプロジェクトや GREEN×EXPO 2027 にかける思い、そして GREEN×EXPO 2027 を良くしていき、盛り上げていくためにどうしたらいいのか、ご意見をいただければと思います。

■未来共創ラボの皆さんより活動内容について説明 (概要)

1.横浜瀬谷高校の紹介

GREEN×EXPO 2027 の開催地である瀬谷区にある唯一の県立普通科高校。

地域や社会課題の解決に向けて、地域の企業や団体と協力し、実際に行動に移す総合的な探究の時間『未来共創プロジェクト』に力を入れている。

この『未来共創プロジェクト』をきっかけとして、未来共創ラボを結成し、

- ・社会課題の解決
- ・持続可能な社会の構築
- ・横浜市瀬谷区の活性化
- ・GREEN×EXPO 2027 の機運醸成
- ・横浜瀬谷高校の認知度向上

などを目的として、地域貢献活動や中学生向け探究講座に取り組んでいる。

2.未来共創ラボの活動紹介

主な取組は次のとおり。

- 1.フラワーロードプロジェクト
- 2.フラワーループプロジェクト
- 3.「未来咲きガーデン」プロジェクト(農林水産省主催)

2.1 フラワーロードプロジェクト

「フラワーロードプロジェクト」では、GREEN×EXPO 2027 に向けて、年2回、地域の方々と一緒に EXPO 会場のゲートウェイとなる海軍道路を花で彩っている。未来共創ラボが運営し、ボランティアの生徒約100人が参加。2025年12月13日に第9回目を開催。寒い中、皆さん元気に海軍道路を花で彩っていただいた。第10回、第11回は、2026年5月・12月に開催予定。

「フラワーロードプロジェクト」がきっかけとなり、GREEN×EXPO 2027 花・緑出展に横浜瀬谷高校が未来共創ラボとして内定し、様々な機運醸成のイベントにも参加している。

2.2 フラワーループプロジェクト

「フラワーループプロジェクト」では、枯れた花をたい肥にしたり、花を植えていたポットを新しくゴミ袋に作り直したりするなど、GREEN×EXPO 2027 開催地である瀬谷区で、地域の企業や団体と連携・協働しながら花や緑が循環する仕組みの構築を目指し活動している。そのほかにも、伐採した木材や廃材を利用した着生植物(ビカクシダやエアプランツ)の育成に挑戦。サーキュラーな新素材の研究にも取り組んでいる。(教室の)中央にあるものは海軍道路の桜の木を再利用したもの。子ども向けに廃材板付けワークショップを開催したり、イベントで展示したりするなど、植物を通じてサーキュラーエコノミーの考え方を広めている。

この教室では、ハーブを栽培している。ハーブは、人間の食用となるだけでなく、ミツバチや蝶などの蜜源にもなり、生物多様性の保全をはじめとするネイチャーポジティブにも寄与する。これが、フラワーループとして、花や緑が、人間を含む生物の命を支えているという生命の循環(circulation of life)を示すことにつながる。これらのハーブを使ってハーブティーやクッキーを作り、さらに駅近くのカフェとコラボして商品提供している。

「フラワーロードプロジェクト」「フラワーループプロジェクト」を通して、花と緑には、それ自体の魅力だけでなく、(生命を)循環し、人をつなげ、地球の未来を共創・共想する力があることを実感した。このサーキュラーな取組や GREEN×EXPO 2027 の開催地である横浜・瀬谷の魅力・市民力を、一つのガーデンに集約し、世界に発信したいと考えている。

2.3 未来咲きガーデンプロジェクト

私たち未来共創ラボは、農林水産省が主催する GREEN×EXPO 2027 の日本政府苑で高校生ガーデンを制作するプロジェクトに、全国5校のうちの1校として内定(選出)された。私たちのガーデンは、自然による課題の解決「ネイチャーベースドソリューション」を提示。これまでの活動を通じて、気候変動や生物多様性の損失につながる大量生産・大量消費・大

量廃棄、人口減少や高齢化によるコミュニティの希薄化とウェルビーイングの低下、地域魅力化・地域経済活性化の必要性を感じてきた。そこで、

- ・サーキュラーエコノミーの観点から、花と緑が循環する「サーキュラーガーデン」
- ・コミュニティづくりの観点から、人がつながり、地球の未来を共創・共想する「コミュニティガーデン」
- ・地域魅力化・地域経済活性化の観点から、横浜・瀬谷の魅力を発信し表現できる「横浜・瀬谷リージョナルガーデン」を制作したいと考えている。

私たちが制作する「横浜・瀬谷フラワーループガーデン」の要素は次の5つ。

- 1.地産の無農薬ハーブを主とし、野菜や果樹、食用花も植栽するエディブルガーデン
- 2.神奈川県産木材の間伐材を活用したレイズドベッドとウッドチップマルチ
- 3.ポリネーターとしてのハチを育てるインセクトホテルや養蜂箱
- 4.ワークショップスペースと緑のパーゴラやオーニング、それに隣接した雨水タンク
- 5.枯れた植物を堆肥にアップサイクルするバイオネスト(コンポスト)

これまで、ガーデン制作にあたり以下のことを実施してきた。

- ・全国5校が集まるキックオフミーティングで、それぞれが制作するガーデンの詳細について話し合い
- ・里山ガーデンの視察
- ・アドバイザーミーティングで、制作しているガーデンについて話し合い、アドバイスをもらう

今後は、ガーデン実現に向けて、瀬谷駅周辺でのエディブルコミュニティガーデンの実証実験を計画している。

3.その他のプロジェクトの紹介

- ・事業者を招いて中学生向け探究講座を実施
 - 第1回・第3回講師:瀬谷区で養蜂をおこなっている「セヤミツラボ」様
 - 第2回講師:FM 横浜様
- ・その他、様々なイベントに参加

GREEN×EXPO 2027 開催時には、横浜・瀬谷に、全世界からお客様が来る。会場最寄りの高校である私たち(横浜瀬谷高等学校)は、全世界のお客様を迎えるホスト校であるという自負を持ち、横浜・瀬谷の魅力や、サーキュラーエコノミーやネイチャーポジティブなど、持続可能な社会づくりの必要性を発信していきたい。

■質疑応答

市長:もともと取り組んでいた「フラワーロードプロジェクト」に加え、GREEN×EXPO 2027の実施に向けた取組が本格化するのに伴い「サーキュラー」への関心を深め、活動を展開している。その中で政府出展に応募し、選抜されるなど、GREEN×EXPO 2027に最も近い学校として、(本市と)一緒に活動していると感じている。

そこで、GREEN×EXPO 2027を若い世代とどのように盛り上げるか、意見を聞きたい。実現可能性は問わず、こうしたいという思いや、取組の中での課題、EXPOへの

期待、サーキュラーな取組を広げる方法など、何でも聞かせてほしい。

生徒:発信するだけでは表面的な受け止めになってしまう。より自分たちでどう生活に生かすか(が重要)。例えば、ペンや服などをエコなものに変えるなどの取組を行っていきたい。

市長:そういうサーキュラーの考え方をみんなに伝えていってほしい。

「フラワーロードプロジェクト」は来訪者を楽しませる取組であり、サーキュラーな取組を広げていくことは今後の気候変動対策に必要。一方で私たちのまちで大きな EXPO が開催される。GREEN×EXPO 2027 に一番近い高校として皆さんの取組をどのように発信していけばよいと思うか。

生徒:世界中の人たちが集まる大きな舞台で大々的に発表したり、来た方たちと直接会話したりしたい。人と話すことが好きなので、一人一人と会話や意見交換できる場があるといい。

市長:・同じような思いを持つ若い世代が多く来場すると思うので、EXPO の会場内外で意見交換できるといい。

・どうすれば、皆さんのような若い世代が GREEN×EXPO 2027 に関心をもって来てもらえるのか、また、皆さんの取組をどのように発信していけばよいのか意見を聞きたい。

生徒:・「未来共創ラボ」の夏合宿で県外へ行った際、周りの人たちは GREEN×EXPO 2027 のことを知らなかった。自分自身が発信者になれるようにしたい。皆でそれぞれ自分の庭やエコロジーを発信できるような機会があれば実感が湧くのではないかな。

・エコを発信することで思いが伝わり、参加するきっかけになるのではないかな。

市長:皆さんは自分で発信しているからこそ思いが強くなっているのだと思う。

まち中で GREEN×EXPO 2027 を感じられるような取組があちこちにあればいいと思う。

会場自体も盛り上がってほしいが、横浜市で行われる大きな博覧会であり、開催期間中に、市民の方に広く、サーキュラーな気持ちや環境への思い、花や緑の美しさを知ってもらいたい。会場の内外で、みんなが自分たちのエコや自分たちの育てた花や緑を他の人に見てもらえる機会があるといい。

生徒:・いろいろなイベントに参加しているが、GREEN×EXPO 2027 って何?という声を意外と聞く。市内の他イベントでも広報し、知名度をもっと上げていきたい。

・廃材を使ったエアプランツのワークショップを子どもたちと一緒にやっている。エコや植物と一緒に学ぶ場を作っていきたい。知名度を高めたい。廃材を使うことで、サーキュラーエコノミーの観点からその価値が高まる。

市長:・実際に作業をしてみるというのは自分ごとになる。

・GREEN×EXPO 2027 の良いところは2種類楽しめるところ。

一つは植物のことを学んで楽しめること。もう一つはサーキュラーの取組をみんなで体感し学んで広げていくこと。ぜひ、会場内外で広げていってもらえると嬉しい。

生徒:普段の生活では見られないエコ技術に触れたい。

市長:・エコな活動に皆さんは関心があると思うが、周りはどうか。

生徒:・GREEN×EXPO 2027 をきっかけに前よりは高まっている。

・同年代には自分たちでも伝えていきたい。根拠に基づいて社会問題について身をもって体感してもらう機会を作る。体感してもらった方が、説得力が増す。

先生:・学校の方針が持続可能な社会の創り手を育てることであり、GREEN×EXPO 2027 の理念と合致している。「未来共創プロジェクト」を通して、社会課題の解決や持続可能な社会の実現を目指し、学習を行っている。生徒にはそういう意識もあるし、1 年生は GREEN×EXPO 2027 を見据えて横浜・瀬谷の活性化について考える授業があるので、認知度はあがっているのではないか。

市長:・若い世代の皆さんが GREEN×EXPO 2027 に関わっていくことが重要。一緒に盛り上げてほしい。体験・議論することで課題などを自分ごととして捉えてもらえるといい。

生徒:・自分自身が興味を持ったきっかけは、「フラワーロードプロジェクト」への参加である。運営に携わることで実感を持てるようになった。

・活動を通して、長津田駅や南町田駅から会場までのシャトルバスの道にも、花を植えたらいいいのではと思った。プロジェクトの趣旨も外から来る人に対するものであり、南町田駅の方からもフラワーロードがあるとよい。

市長:他の地区にも皆さんの声を広げられるといい。横浜市の広報からも応援させてほしい。

生徒:開催後、来場してもらった人に期待以上のものを提供することで、もっと(GREEN×EXPO 2027 の)認知度を上げていきたい。

■市長：あいさつ

これから GREEN×EXPO 2027 への期待が高まり、「私も参加したい」という声が出てくると思います。若い世代の皆さんの率直な思いをコーディネートし、期間中に様々な取組を行うことで、会場内外で市民全体が世代を超えて EXPO をつくっているという実感を持てるようにしていきたいです。皆さんのアイデアが GREEN×EXPO 2027 をつくっていきます。アイデアが膨らんたら、先生を通じて区役所に伝えてください。先生や区役所と連携しながら、横浜瀬谷高校と一緒により良い GREEN×EXPO 2027 をつくっていきたいと思います。

また、会場に一番近い高校として、自分たちの手で盛り上げていくという自負があると思います。横浜市と一緒に GREEN×EXPO 2027 を大きく盛り上げていきましょう。